

インフラメンテナンス国民会議 自治体支援フォーラム
～インフラ老朽化時代におけるレジリエントな郡山を目指して～
班別討議参考資料

- 1A班 班別討議参考資料
 - 1：橋梁点検状況一覧
 - 2：橋梁定期点検業務委託 特記仕様書
 - 3：点検結果サンプル（大黒橋）
 - 4：大黒橋における長寿命化対策の検討について

- 1B班 班別討議参考資料
(革新的技術フォーラム～道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー～各社提出資料)

- 2班 班別討議参考資料
 - 1：Society5.0 とインフラメンテナンスサイクル
 - 2：「社会資本の維持管理における包括的民間委託等の活用促進に向けた勉強会」における中間とりまとめ
 - 3：技術者派遣の試行※中間とりまとめ本文、その他資料を討議参加者には配布

- 3班 班別討議参考資料
 - 1：テーマ「市民参画の可能性」 事例等の概要
 - 2：「ココナビこおりやま」とは
 - 3：ちばレポ
 - 4：しゅうニャン橋守隊（CATS-B）による猫の手メンテナンス活動
 - 5：長野県栄村 直営道路改良（道直し）事業
 - 6：十日町市 メンテへの市民参画の取組み
 - 7：市民普請大賞（土木学会 100周年記念事業）

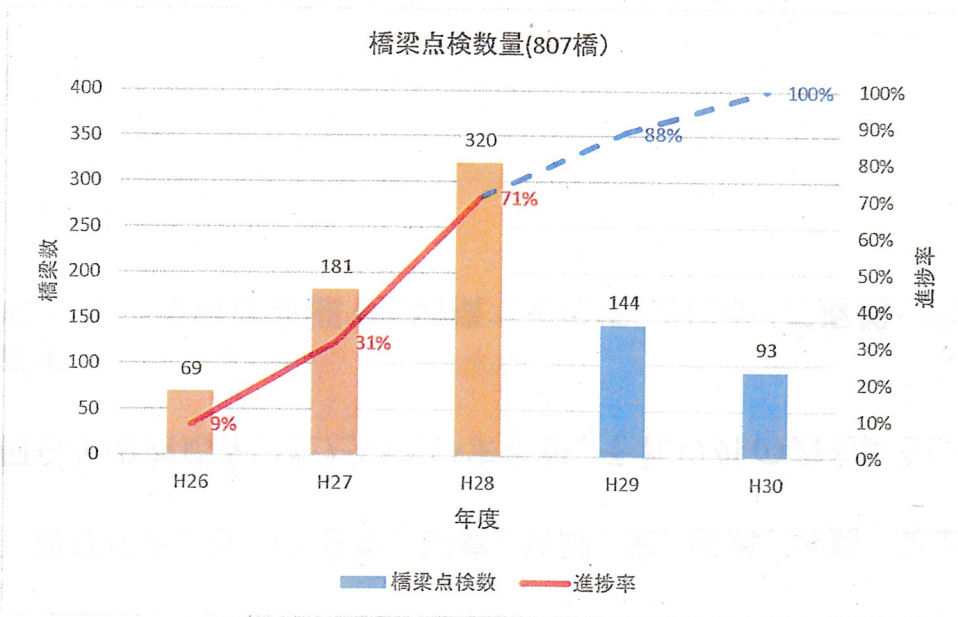
※班別討議参加者、聴講・随行者には各班分のみを配布

1 A班

■ 橋梁長寿命化事業 H28橋梁点検状況一覧 (H26~H30)

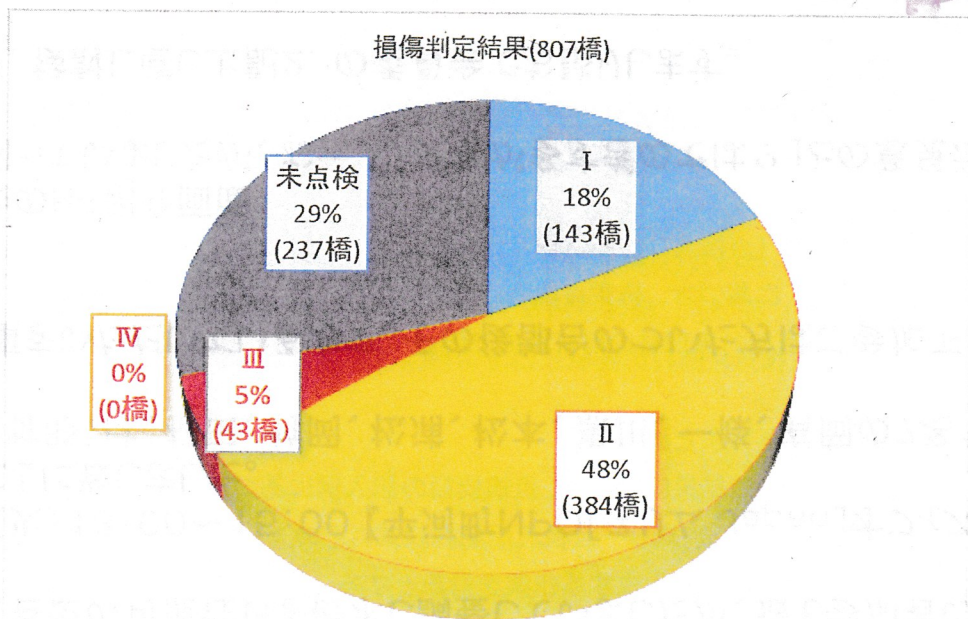
● 橋梁点検状況 (H28年度末まで)

	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 計画	H30 計画	計
橋梁点検数 (進捗率)	69 (9%)	181 (31%)	320 (71%)	144 (88%)	93 (100%)	807
累計	69	250	570	714	807	



● 損傷判定結果 (H28年度末まで)

	H26	H27	H28	H29	H30	計
判定Ⅰ	0	49	94			143
判定Ⅱ	60	112	212			384
判定Ⅲ	5	24	14			43
判定Ⅳ	0	0	0			0
計	65	185	320			570



橋梁の形態による定期点検の頻度等についての考察

NPO法人SlmJapan 理事 山中鷹志

近年道路構造令の一部が改正され道路橋の全てについて5年毎の近接点検が義務づけられた。中央高速道の笹子トンネル天井版落下事故の反省からの処置であるが、7年前から始めた川遡行とそこに架かる橋の全ての目視観察の状況から、全ての橋を一律に5年毎に近接点検することに疑問を感じた。橋の種別、おかれている状況、経緯などを考慮した橋毎の点検方法、頻度が必要と感じている。無駄な点検を極力減らしその分の費用、労力を橋の補修、保全に廻すべきと考えている。

1. 先ず橋の仕様を調べる

橋梁台帳に記載の無い橋については、現橋の橋歴板が有ればそれで、無い場合は近隣の類似橋梁の仕様から推定して橋種、施工時期及び仕様を確認しておく。

2. 橋完成時の出来栄を可能な限り調べる。

初期の施工不良がその後の耐久性に影響する。

高度成長期に重荷重の大型車が通行していたか

3. 橋の橋種ごとの注意点を整理しておく

C床板橋、C桁橋、初期のPC桁橋、JISPC桁、ヤード打ちPC桁、現場打ちPC桁、現場打ちPC箱桁
路面凍結防止剤散布の頻度、程度、排水柵、管、伸縮装置がこれを考慮しているか

鋼桁橋、トラス橋、アーチ橋、無塗装橋

4. 橋(道路)の重要度をランク分けし橋毎の保全目標を決める

ランクの低い橋梁は廃止を前提に地元関係者に説明、了承を取る協議を進める。

ランクの高い橋梁は可能な限り第1回目の近接点検を行う。ただし10年以内に完成した橋については5年後以降でも良い。

5. 橋毎の定期点検の頻度、方法を決める

上記調査、目標が決まれば以下の区分に基づき定期点検の頻度、方法により橋の保全を行う。